

# 短歌

発表会胸の鼓動が鳴り止まず歌い終りてはと和みぬ  
雲海は夕陽に染まり緋の絨毯プロペラ機内歌声上がる  
天高く季節移ろい風さえも優しく揺らすコスモスの原

あつま文芸友の会発行「文芸あつま第二十三号」から抜粋

**厚高いいね!**

- 就職・進学決定率 100%
- 基礎基本重視の授業
- 学校給食開始地産地消の自給の給食
- 学校ボランティアクラブ
- 学校課外クラブ活動
- 交通費4/5補助
- 奨学金貸付率3/4補助
- 厚高で、何よりも落ち着いた学校生活を。
- 学校見学随時受付中

北海道厚真高等学校

## 厚高インフォメーション Atsuma High school Information

学校の取組をご覧いただけます。  
厚真高校ホームページ  
<http://www.atsuma.hokkaido-c.ed.jp/>

厚高の取り組みや良さを知ってもらうために「厚高PRポスター」を作成しました。町内および近隣の事業所などや苫小牧市内中学校へ掲示しています。

**■芸術鑑賞**  
▽9月26日(木)  
オホーツク管内の遠軽高校吹奏楽局が、あつまスタジアムで厚高生に演奏会を開いてくれました。昨年実施予定でしたが、地震の影響で中止となり、1年越しの開催でした。被災後、遠軽高校吹奏楽局からは地元の演奏会などで義援金を集めていただくなどの支援を受けました。吹奏楽局員70人が、SHISHAMOのヒット曲「明日も」や息のそらったマーチング、高校野球スタンド応援をアレンジした「かつせーかつせー厚真」のエアールを披露するなど、本校生徒に迫力ある演奏を披露いただきました。本校生徒会長の蓮池柚奈さんは「迫力があり勇気をもらいました」と述べ、遠軽高校吹奏楽局長は「厚真高校を全力で応援しよう」と自分たちで考えてきまし

**■中学生1日体験入学**  
▽10月8日(火)  
中学校3年生を対象に、厚真町・安平町・むかわ町・苫小牧市から、昨年の約2倍の46人が参加してくれました。厚高の特色について説明し、体験授業では大いに盛り上がり楽しんでいました。  
一人でも多くの生徒に厚高の良さが伝わればと思います。

**■全校強歩大会**  
▽10月9日(水)  
2年振りの開催です。今年には新たな20kmのコースを、参加生徒全員が完走しました。長距離を走りきることで、強い体と忍耐力を培い、ゴール後の達成感・成就感を感じるとる目的で行っています。

### 発表します!!

### 将来の夢&目標

厚真中央小学校6年



くらしげ はる 藏重 晴さん



どい やひろ 土居 弥くん



さかもと みりあ 坂本 美里愛さん

## 厚真町 地域おこし 企業人



株式会社フェリシモ  
みうら たくや  
**三浦 卓也さん (43歳)**

着任 平成29年4月(3年目)  
出身地 大阪府(家族は神戸市在住)

### file.26

**最近どんな活動をしていますか**  
株式会社フェリシモより地域おこし企業人として厚真町に着任し2年半がたち、昨年の震災以降、「被災した地域のために会社を通じて何ができるか」を考え動いてきました。  
震災後すぐにフェリシモのお客さまへ毎月1000円の支援基金の呼びかけを行い、毎月3千人を超えるお客さまがご支援くださりました。集まった基金で厚真町の復興と、9月に行われた「森のひろば」の支援に活用させていただきました。  
**これからの目標や挑戦したいことを教えてください**  
昨年12月6日にフェリシモの子会社「株式会社HOROYOI(ホー・フォー)」を上厚真地区に設立しました。  
社会課題に事業を通じて向き合う会社に対して投資やコンサルテーションを行う会社で、厚真から日本の未来に「希望」を贈る事業を生み出すことを目的としています。  
今回、この会社で北海道から依頼を受け厚真・安平・むかわの被災3町の復興支援事業を行うことになりました。投資や復興支援事業を通じて少しでも東胆振の未来に希望を贈ることができたと思います。

## 生活支援相談員 だより

社会福祉協議会 生活支援相談室  
電話:29-7407

「せっかく親しくなったのに寂しいよ」・・・  
被災家屋の修繕が終わり自宅に戻ることになった方が仮設住宅での生活を振り返って相談員に漏らした本音です。本来自宅での生活の再開は嬉しいことであるはずなのに、日々の関わりや積み重ねが仮設入居者相互の絆を深めていたことを実感しました。  
ある仮設住宅団地では、稲刈りが本格化する前に入居者に幅広く声かけをして懇親会が開催されました。日頃はなかなか腰を落ち着けて話すことができない皆さんですが、この日ばかりは会話も著も進んでいるようでした。  
「いっそのまま自治会にしようか」「仮設住宅を出ても雪かきの時季にはまた来てくれな」など、冗談

とも本気とも取れないやりとりのなかに、約1年間を同じ環境で過ごしてきた入居者同士だから分かり合えることがあるのだと改めて気づかされました。  
生活支援相談員は仮設住宅を退居した世帯にも、折を見て伺う機会があります。仮設住宅での暮らしは誰も望んだことではありませんが、そこでの出会いを励みに生活再建を目指す方々がいらっしゃいます。生活支援相談員として、そうしたつながりを今後も後押ししていきたいと思ひます。



## 災害ボランティアセンター だより

町災害ボランティアセンター  
電話:29-7407 専用電話:080-1888-3140

9月17日に佐賀県豪雨災害の被災地、大町町災害ボランティアセンターと武雄市のおもやいボランティアセンターへ町の有志の皆さんから提供いただいた野菜(トウモロコシ、ジャガイモ、ニンジン、タマネギなど)や厚真町産の木炭などの支援物資を、厚真町社会福祉協議会を通じて送りました。

オープン ジャパン OPEN JAPANが、佐賀県大町町で復旧支援を行っている縁もあってお送りすることとなったもので、住民を励ます炊き出しや被災された世帯へ届けられ、現地の被災住民の皆さんに喜んでいただけたと報告が届いています。

また、これまで町に寄せられた励ましを次の被災地に届けようと、メッセージを添えて仮設住宅談話室で行われている編み物教室の作品も送りました。  
これは昨年の北海道胆振東部地震の時に町でも復旧活動をしていただいていたボランティア団体

